

## 保険・証券・その他金融

### 1. 評価対象企業（9 社）

- 【生保】（3 社）      かんぽ生命保険、第一ライフグループ（注）、T&D ホールディングス  
 【損保】（3 社）      SOMPO ホールディングス、MS&AD インシュアランスグループホールディングス、  
                                 東京海上ホールディングス  
 【証券】（2 社）      大和証券グループ本社、野村ホールディングス  
 【その他金融】（1 社）   オリックス

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）第一生命ホールディングスが商号を変更した（2026 年 4 月）

### 2. 評価方法等

#### （1） 評価基準の構成および配点

| 評価分野                            | 下記本文中の略称      | 評価<br>項目（注）数 | 配点  |
|---------------------------------|---------------|--------------|-----|
| ①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス | 経営陣の IR 姿勢等   | 4            | 26  |
| ②説明会、インタビュー、説明資料等における開示         | 説明会等          | 5            | 30  |
| ③フェア・ディスクロージャー                  | フェア・ディスクロージャー | 1            | 5   |
| ④ESG に関連する情報の開示                 | ESG 関連        | 3            | 32  |
| ⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示             | 自主的情報開示       | 1            | 7   |
| 計                               |               | 14           | 100 |

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

#### （2） 評価実施アナリストは 17 名（所属先 17 社）である。（氏名等は後掲）

### 3. 評価結果

#### （1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、説明会等、フェア・ディスクロージャーおよび ESG 関連の項目数・内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 72.4 点（昨年度 73.2 点）、総合評価点の標準偏差は、6.4 点（昨年度 6.0 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、損保（3 社）が 74.2 点（昨年度 77.0 点）、生保（3 社）が 72.2 点（昨年度 71.6 点）、証券（2 社）が 66.4 点（昨年度 68.8 点）、その他金融（1 社）は 75.5 点（昨年度 75.4 点）となった。昨年度に比べ、生保およびその他金融の得点率が改善した。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 75%（昨年度 74%）、説明会等が 72%（昨年度 73%）、フェア・ディスクロージャーが 82%（昨年度同率）、ESG 関連が 69%（昨年度 74%）、自主的情報開示が 73%（昨年度 63%）となった。
- ④ 評価項目について見ると、全 14 項目中、次の 3 項目（経営陣の IR 姿勢等の中の 2 項目（(a) (b)）、フェア・ディスクロージャーの中の 1 項目 (c)）が 80%以上の平均得点率となり、高い水準となった。

(a)「経営陣が企業価値および株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなど IR に積極的に関与していますか。経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていますか」(平均得点率 82% [昨年度同率]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略): 60% 台 1 社・70% 台 2 社・80% 台 6 社)

(b)「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができますか。IR 部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか」(平均得点率 80% [昨年度同率]) (得点率: 60% 台 2 社・70% 台 2 社・80% 台 4 社・90% 台 1 社)

(c)「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものですか。月次開示、説明会の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データを日英両言語で行っていますか」(平均得点率 82% [新規項目]) (得点率: 60% 台 2 社・80% 台 5 社・90% 台 2 社)

⑤ 一方、次の項目(説明会等の中の 1 項目)は、平均得点率が 50% 台となり、低水準であった。

・「決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率 53% [昨年度 55%]) (得点率: 30% 台 3 社・40% 台 1 社・50% 台 2 社・80% 台 2 社・90% 台 1 社)

## (2) 上位 3 企業の評価概要

### **第 1 位 東京海上ホールディングス (ディスクロージャー優良企業 (3 回連続 8 回目)、**

**総合評価点 78.9 点 [昨年度比+2.4 点])**

- ① 同社は、ESG 関連が第 1 位(得点率 (以下省略) 77%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位(90%)、経営陣の IR 姿勢等(82%)、説明会等(77%)が第 2 位、自主的情報開示が第 4 位(77%)となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」、「IR 部門の機能」および「IR の基本スタンス」の 3 項目が最も高い評価(同得点第 1 位を含む)となった。「社外取締役との対話」は第 6 位(昨年度第 3 位)であった。これらに関連して、経営陣の株価や企業価値向上に対する意識の高さを評価する声とともに、他社のキャッチアップを指摘する声が寄せられた。IR 部門の機能については、問い合わせに対する迅速な対応など高い対応力を評価する声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、5 項目のうち 4 項目が最も高い評価となった。これらに関連して、IR 電話会議資料について、シンプルでありながら十分な情報量を備え、グローバル水準の開示を意識している点を評価する声が寄せられた。IFRS 移行に伴い、詳細データを Excel 形式で開示している点や、収益に関する開示の充実度を評価する声があった。また、「決算発表日、発表」は同得点第 8 位であった。これに関連して、決算発表日、特に第 3 四半期決算発表の集中緩和や、投資家の理解促進に配慮した日程設定を望む声が多く寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものであること。月次開示、説明会の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データを日英両言語で行っていること」は同得点第 1 位となった。これに関連して、日英両言語での情報発信や説明会運営が高い水準で実施されており、公平な情報提供が継続されていることを評価する声が寄せられた。
- ⑤ ESG 関連においては、「コーポレートガバナンス」および「E (環境)・S (人的資本を含む社会)に関する情報開示」が最も高い評価となった。「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示」は第 2 位となった。これらに関連して、資本政策や政策保有株式の削減に関する説明が充実しており、進捗開示も分かりやすいことを評価する声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は第 4 位となった。充実していたイベントとして、IFRS・ICS 導入に関する説明会や Group CEO Small Meeting を挙げる声が多く寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

## **第2位 第一ライフグループ（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、**

**総合評価点 78.0 点【昨年度比+0.8 点】、昨年度第2位【一昨年度第3位】）**

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（83%）、自主的情報開示（87%）が第1位、ESG 関連が第2位（74%）、説明会等が第3位（75%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（84%）となった。昨年度に比べて、自主的情報開示の得点率が大幅に改善し、第1位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」および「社外取締役との対話」が最も高い評価（同得点第1位を含む）となった。「IR の基本スタンス」は同得点第2位、「IR 部門の機能」は同得点第3位となった。これらに関連して、CEO の株価や企業価値向上に対する意識が高く、自ら積極的に投資家訪問を実施していることを評価する声が寄せられた。また、投資家の関心が高いテーマについて、テーマ別スモールミーティングの開催や CFO による FAQ を通じた丁寧な情報発信を評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」（3 項目計）が第2位となった。これに関連して、説明会における CEO・CFO の率直かつ分かりやすい説明や質疑応答を評価する声が寄せられた。また、「決算資料・統合報告書等における開示」は同得点第2位になった。「決算発表日、発表時間」に関連して、決算発表日や決算説明会の日程について、特に第3四半期決算発表時の集中を回避し、投資家が十分に内容を消化できる環境整備を望む声が多く寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものであること。月次開示、説明会の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データを日英両言語で行っていること」は同得点第3位となった。これに関連して、説明会資料や質疑応答の開示が充実していることに加え、海外投資家向けの積極的な情報発信を評価する声が寄せられた。
- ⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示」が最も高い評価となった。これに関連して、資本政策や中期経営計画の進捗説明は充実しているとの声があった。「コーポレートガバナンス」および「E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示」が共に第4位となった。
- ⑥ 自主的情報開示の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は最も高い評価（昨年度同得点第4位）となり、昨年度に比べて得点率が大きく改善した。充実していたイベントとして、事業戦略説明会（国内保障事業・資産形成・承継事業）を挙げる声が多く寄せられた。

同社は、3 回連続して第2位または第3位の評価を受けたので、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」に選定した。

## **第3位 オリックス（総合評価点 75.3 点【昨年度比-0.1 点】、昨年度第5位）**

- ① 同社は、説明会等が第1位（78%）、ESG 関連が第3位（73%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（84%）、経営陣の IR 姿勢等が第4位（78%）自主的情報開示が第7位（60%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が第2位、「経営陣の IR 姿勢」は同得点第3位、「IR の基本スタンス」は第4位、「社外取締役との対話」は第5位となった。これらに関連して、新社長就任後、株式市場との対話姿勢が強化されていることを評価する声が寄せられた。また、経営陣および IR 部門が積極的な情報開示・情報発信を行い、その時々的重要なトピックについて分かりやすく説明していることを評価する声があった。なお、多角的な事業構成の強みを認識している一方、利益成長のドライバーについては、より分かりやすい説明を望む声もあった。
- ③ 説明会等においては、「決算資料・統合報告書等における開示」が同得点第2位となった。これに関連して、ここ数年で情報開示の充実が顕著に進展していることを評価する声や、事業別開示が豊富であることを評価する声が寄せられた。なお、キャピタルゲインに関する開示のさらなる充実を望む声もあった。また、「説明会、インタビューにおける開示」（3 項目計）は同得点第4位となった。これに関連して、決算ごとに開催されるスモールミーティングが有意義であり、投資家との理解促進や対話の深化に資していることを評価する声が寄せられた。このほか、「決算発表日、発表時間」は同得点第2位であった。
- ④ フェア・ディスクロージャーの「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものであること。月次開示、説明会の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データを日英両言語で行っていること」が同得点第3位となった。これに関連して、各種の適時開示リリー

スを通じて、適時かつ公平な情報開示が行われていることを評価する声があった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレートガバナンス」が第 2 位、「E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示」が第 3 位、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示」は同得点第 3 位となった。これらに関連して、ESG に関する取り組みや非財務情報と、資本政策・企業価値向上とのつながりについて、より分かりやすい説明を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は第 7 位となった。充実していたイベントとして、社外取締役ミーティングを挙げる声が寄せられた。また、新たな取組みとしてロンドンで **IR Day** が開催された。

以 上

# 2026年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (保険・証券・その他金融)

(単位:点)

| 順位 | 評価項目<br><br>評価対象企業             | 総合評価<br>(100点) | 1. 経営陣のIR姿勢、<br>IR部門の機能、IR<br>の基本スタンス | 2. 説明会、インタビュー、<br>説明資料等における<br>開示 | 3. フェア・ディスク<br>ロージャー | 4. ESGに関連する<br>情報の開示 | 5. 各業種の状況に即した<br>自主的な情報開示 | 前回<br>順位 |
|----|--------------------------------|----------------|---------------------------------------|-----------------------------------|----------------------|----------------------|---------------------------|----------|
|    |                                |                | 評価項目4<br>(配点 26点)                     | 評価項目5<br>(配点 30点)                 | 評価項目1<br>(配点 5点)     | 評価項目3<br>(配点 32点)    | 評価項目1<br>(配点 7点)          |          |
| 1  | 8766 東京海上ホールディングス              | 78.9           | 21.4                                  | 23.0                              | 4.5                  | 24.6                 | 5.4                       | 1        |
| 2  | 8750 第一ライフグループ                 | 78.0           | 21.5                                  | 22.6                              | 4.2                  | 23.6                 | 6.1                       | 2        |
| 3  | 8591 オリックス                     | 75.3           | 20.3                                  | 23.3                              | 4.2                  | 23.3                 | 4.2                       | 5        |
| 4  | 8795 T&Dホールディングス               | 73.7           | 20.6                                  | 21.5                              | 4.0                  | 22.1                 | 5.5                       | 3        |
| 5  | 8725 MS&ADインシュアランスグループホールディングス | 72.2           | 19.4                                  | 20.7                              | 4.0                  | 22.6                 | 5.5                       | 6        |
| 6  | 8630 SOMPOホールディングス             | 71.6           | 19.8                                  | 20.2                              | 4.1                  | 22.3                 | 5.2                       | 4        |
| 7  | 8604 野村ホールディングス                | 70.0           | 18.4                                  | 21.9                              | 4.5                  | 19.9                 | 5.3                       | 8        |
| 8  | 7181 かんぽ生命保険                   | 61.3           | 16.0                                  | 18.5                              | 3.2                  | 19.9                 | 3.7                       | 9        |
| 9  | 8601 大和証券グループ本社                | 61.2           | 16.1                                  | 19.4                              | 3.4                  | 18.3                 | 4.0                       | 7        |
|    | 評価対象企業評価平均点                    | 72.39          | 19.61                                 | 21.48                             | 4.08                 | 22.14                | 5.08                      |          |

## 2026年度の具体的評価項目および配点（保険・証券・その他金融）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

| 1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）                                                                              | 配点 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| (1)経営陣のIR姿勢                                                                                                     |    |
| ・経営陣が企業価値および株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていますか。      | 10 |
| (2)社外取締役との対話                                                                                                    |    |
| ・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。                                                                              | 5  |
| (3)IR部門の機能                                                                                                      |    |
| ・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。IR部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか。                               | 5  |
| (4)IRの基本スタンス                                                                                                    |    |
| ・会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られますか。例えば、不祥事、気候変動、資産と負債に付随するリスクなど。                               | 6  |
| 2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（30点）                                                                                  | 配点 |
| (1)説明会、インタビューにおける開示                                                                                             |    |
| ①部門別・地域別等、財務分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。 | 10 |
| ②事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）開示が十分になされていますか。                                                  | 5  |
| ③④決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていますか。                                                         | 5  |
| (2)決算資料・統合報告書等における開示                                                                                            |    |
| ・業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。                                                                                  | 5  |
| (3)決算発表日、発表時間                                                                                                   |    |
| ・決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか。                                                                                        | 5  |
| 3. フェア・ディスクロージャー（5点）                                                                                            | 配点 |
| ・投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものですか。月次開示、説明会の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データを日英両言語で行っていますか。            | 5  |
| 4. ESGに関連する情報の開示（32点）                                                                                           | 配点 |
| (1)コーポレートガバナンス                                                                                                  |    |
| ・実効性のあるコーポレートガバナンスを確保するための取組みを公表し、市場関係者の理解を得るよう努めていますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報、社外取締役の選定プロセス、腐敗防止への取組み。        | 12 |
| (2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示                                                                                      |    |
| ・中長期経営計画、資本政策（ROE、資本コスト、キャピタルアロケーション等）、株主還元方針を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的な方策が十分説明されていますか。                            | 12 |
| (3)E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示                                                                                   |    |
| ・E（環境）およびS（人的資本を含む社会）に関する経営戦略にリンクした目標設定、PDCAサイクルの実践、アップデートがなされていますか。                                            | 8  |
| 5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（7点）                                                                                       | 配点 |
| ・決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していますか。[過去1年間を目安に評価]<br>【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】           | 7  |

保険・証券・その他金融専門部会委員

|       |       |                         |
|-------|-------|-------------------------|
| 部 会 長 | 村木 正雄 | SMBC 日興証券               |
| 部会長代理 | 丹羽 孝一 | UBS 証券                  |
|       | 斎藤 佳奈 | ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント |
|       | 佐藤 耕喜 | JP モルガン証券               |
|       | 峯嶋 利隆 | ニッセイアセットマネジメント          |
|       | 渡辺 和樹 | 大和証券                    |

評価実施アナリスト（17 名）

|       |                         |       |                        |
|-------|-------------------------|-------|------------------------|
| 板倉 充知 | SOMPO アセットマネジメント        | 戸田 浩司 | りそなアセットマネジメント          |
| 今井 雅  | アセットマネジメント One          | 丹羽 孝一 | UBS 証券                 |
| 上迫 和也 | 三井住友トラスト・アセットマネジメント     | 花岡 宏行 | JP モルガン・アセット・マネジメント    |
| 斎藤 佳奈 | ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント | 摩嶋 竜生 | 東海東京インテリジェンス・ラボ        |
| 坂田 喜彦 | SBI 岡三アセットマネジメント        | 峯嶋 利隆 | ニッセイアセットマネジメント         |
| 坂巻 成彦 | みずほ証券                   | 村木 正雄 | SMBC 日興証券              |
| 佐藤 耕喜 | JP モルガン証券               | 簗谷 和子 | シュローダー・インベストメント・マネジメント |
| 佐野 滉介 | 第一生命保険                  | 渡辺 和樹 | 大和証券                   |
| 竹村 淳郎 | モルガン・スタンレー MUFG 証券      |       |                        |

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。